

教育学研究科の組織・編成

本研究科の組織は、次のとおりです。

- 専門職学位課程
 - 教職リーダー専攻
 - 児童生徒支援コース
 - 学校運営コース
- 修士課程
 - 障害児教育専攻
 - 障害児教育専修
 - 教科教育実践専攻
 - 国語教育専修
 - 社会科教育専修
 - 数学教育専修
 - 理科教育専修
 - 音楽教育専修
 - 美術教育専修
 - 保健体育専修
 - 技術教育専修
 - 家政教育専修
 - 英語教育専修

教職リーダー専攻の教育及び研究の概要

1. 概要

学校現場の諸課題に的確に対応できる高度専門職業人としての教員養成を明確に意識した理論・実践融合型カリキュラム，教員組織（研究者教員、実務家教員），授業形態（研究者教員と実務家教員の協同），長期にわたる系統的教育実習（附属学校と連携協力校における課題追究型実習）を整備し，現職教員を対象に，地域・学校において中核的・指導的役割を担う教員（教職リーダー）の養成，及び基礎的資質の上に実践的指導力を備え，教職リーダーとなり得る新人教員の養成を行います。

「児童生徒支援コース」は，小・中学校において学習面と生活面を切り離して考えることが難しいゆえ，両側面を併せ児童生徒への直接的支援に関する高度な実践的指導力の育成を目指しています。具体的には，個々の児童生徒発達特性・学習能力・学習意欲等に応じた学習支援や生活支援および学級経営を実践できる力，通常学級に在籍する外国籍の児童生徒や軽度の発達障害を持つ児童生徒を含めて，学習支援・生活支援および学級経営を実践できる力，このような資質を身に付けて多様な児童生徒に対して適切な学習支援や生活支援に取り組める教員を養成することを目的としています。

また，「学校運営コース」は現職教員のみを対象とし，学習指導要領を踏まえ学校の実情に合った適切な教育課程を編成できる力，リーダーとなって，研修会等を計画・立案・実行できる力，地域の教育力を活用しつつ学校運営に貢献できる力，外国籍の児童生徒や障害のある児童生徒にも適切な指導が行われるよう教員をリードできる力など，学校運営のリーダーに求められる様々な資質を身に付けて学校現場や地域における様々な課題の解決に向けてリーダーとして取り組める教員を養成することを目的としています。

2. 各コースの目指す教員像

(1) 児童生徒支援コース

本コースの目的は，現代の学校教育において課題となっている学力低下やいじめや不登校などの児童・生徒の学習や生活面での直接的支援に関しての高度な実践力を身につけることです。本

コースでは、経験的な実践知に加え、児童・生徒の学習や生活面に関して、心理学の諸理論及び関連分野の知見からの科学的、分析的な深い理解に基づいて、指導方法を立案し、実践できる教員の養成をめざします。なお、現職教員以外の方は、本コースに限定します。

本コースでは、現職教員学生については、学校や地域で直接、児童生徒に関わる学習指導や生活指導面でのリーダーとなる教員を養成します。現職教員以外の方については、新しい学校づくりの有力な一員となり得る新人教員を養成します。

(2) 学校運営コース

本コースの目的は、現代の学校運営において課題となっている地域連携の在り方や学校の危機管理に対する対応、さらには学校全体における教育課程の編成や校内研修の企画などの学校運営に関しての高度な実践力を身につけることです。本コースでは、経験的な実践知に加え、学校運営全体に関して、教育学の諸理論及び関連分野の知見に基づいた幅広い視野と学校の社会的機能に関する深い理解のもとに、学校運営の実践的指導力のある教員の養成をめざします。

本コースには、現職教員のみを受け入れます。学校内は勿論のこと、地域の学校も含めて、教育力の向上に貢献することのできる学校運営面でのリーダーとなる教員を養成します。

3. 授業担当教員の研究概要

分野	研究の概要	教員
教育法制	公教育は、実定法の規律を受けながら行われるものであるが、教育法制の具体的内容を分析・検討するとともに、どのような目的と方法でこれを研究していくべきかを考察することも、重要なテーマに含めている。	入澤 充
教育哲学	ヤスパース教育哲学の可能性を、ボルノーの教育思想との関連において、教育的関係の観点から研究している。また、フレーベル教育学については、学校教育学に注目し、母性と父性という観点から研究を進めている。	豊泉 清浩
学校経営	学校教育の実務にかかわる職務経験から、現在の学校現場における諸課題に対する具体的な学校経営方策について取り組んでいる。特にこれからの学校の新しい組織運営の在り方について追求していく。	清水 和夫
教育内容・方法学	児童・生徒の概念形成に資する教育内容編成や授業づくりについて考察している。また近年は、「教育改革」のなかでの学校像やそこでの教育課程のあり方、教育評価（学校・教員評価を含む）にも関心を持っている。	山崎 雄介
教育社会学	家庭背景や学校教育制度の違いによる教育機会の不平等およびその変動を客観的に把握し、理論的に考察するとともに、そうした不平等が生み出されるプロセスを、個人の主観的な進路選択の視点からも研究している。	荒牧 草平
発達心理学	幼児・児童の社会的発達について、主に、他者の内面的世界の理解および仲間関係の発達プロセスについて実証的に研究している。また、それらの発達と他者とのかわりとの関連性を検討している。	松永あけみ
発達社会心理学	友人関係、親子関係といった身近で親密な人間関係の在り方や、その中で授受されるソーシャル・サポートと、心理的ストレス反応、孤独感や疎外感といった心理的適応状態との関係を研究している。	古屋 健
学習・認知心理学	人間の主要な認知機能の一つである「記憶」について、実証的に研究する。主に、個人が日常生活で経験したエピソードの記憶（自伝的記憶）に焦点をあてた検討を行っている。	佐藤 浩一

分野	研究の概要	教員
人格・認知心理学	パーソナリティについて、性格特性語を用いたり、実験的手法を導入して、実証的研究を行っている。その際、認知科学的な手法、思考心理学手法を組み合わせる方法を模索し、認知人格心理学の構築を目指している。	山口 陽弘
教育実践開発	教師がいかに授業を構想し、作り上げていくか、子どもがそれをいかに体験するかを捉えようと努めている。最近群馬県における外国人子女教育とそれに対応した教員養成のあり方についても研究を進めている。	所澤 潤
学校教育相談		(平成20年4月1日採用予定)
特別支援教育	重度・重複障害を伴う子どもについて、(1)運動的学習活動と健康状態の関連、および(2)探索行動・移動行動・コミュニケーション行動を活発にする教育的係わり、の二つを主な視点として、教育実践的研究を行う。	松田 直
教科教育	学習内容を児童・生徒に確実に身に付けさせるためには指導と一体化した「目標に準拠した評価」を行うことが重要である。「目標に準拠した評価」を適切に実施するためにはどうしたらよいか。従来の評価の在り方を振り返りつつ、「目標に準拠した評価」について研究し、評価を通して国語科授業の改善をめざす。	河野 庸介
異文化間教育	外国人集住地域(主として太田市・伊勢崎市・大泉町)での教育の現状とその構造を理解し、多文化共生教育の在り方を検討している。現状把握から、モデル事業へ、そして施策立案へとつなぐ実践的研究も行っている。	結城 恵
教育臨床心理	いま在る時代の中で、私たちは如何に魂と関わり人と関わることができるのか。臨床心理学は理論と実践の狭間で、魂の学という本性を如何に展開しえるのか。ユング心理学を基礎とし、この問いと研究に取り組んでいる。	猪股 剛
学習指導		(平成20年4月1日採用予定)
学校運営		(平成20年4月1日採用予定)
多文化共生教育		(平成20年4月1日採用予定)

は教職リーダー専攻専任であり、課題研究を担当します。

履修方法及び学位

1. 教育課程編成の要点

(1) 授業科目は

共通科目

コース別科目

学校における実習科目

によって構成されています。

(2) 学生の履修に際しては、上記の科目間の連携が密接に保たれ、総合的に機能するよう配慮しました。

2. 履修方法

(1) 履修基準（最低単位数）

研究科学生は、指導教員の指導に基づき、下記に示す履修方法によって修得しなければなりません。

[共通科目]

領 域	授 業 科 目	履修年次	単位数 必修選択
教育課程の編成及び実施	教育課程編成の課題と実践	1	2
	カリキュラム開発の課題と実践	1	2
教科等の実践的な指導方法	学習支援の課題と実践	1	2
	教育評価の課題と実践	1	2
生徒指導及び教育相談	児童・生徒理解の課題と実践	1	2
	児童・生徒指導の課題と実践	1	2
	教育相談の課題と実践	1	2
学級経営及び学校経営	特別活動指導の課題と実践	1	2
	学校経営の課題と実践	1	2
学校教育と教員の在り方	教育環境学	1・2	2 内2単
	教員の倫理	1・2	2 位必修
多文化共生教育	多文化共生教育の課題と実践	1	2 内2単
	多エスニシティ化社会の教育の課題と実践	1	2 位必修
修了に必要な単位数			2 2

[コース別科目]

コース 授業内容分野	授 業 科 目	履修年次	単位数 必修選択
児童・生徒支援コース ・ 授業支援に関する分野	学習支援の課題と実践	1・2	2
	教育評価の課題と実践	1・2	2
	授業分析実践	1・2	2
・ 生活支援に関する分野	児童・生徒理解の課題と実践	1・2	2
	児童・生徒指導の課題と実践	1・2	2
	教育相談の課題と実践	1・2	2
	教育相談実習	1・2	1
	特別活動指導の課題と実践	1・2	2
	心理・発達アセスメント実習	1・2	1
	児童・生徒指導のためのロールプレイの技法と実習	1・2	1
・ 特別支援に関する分野	外国籍児童特別支援教育の課題と実践	1・2	2
	発達障害児特別支援教育の課題と実践	1・2	2
・ 実践研究に関する分野	教育実践のリフレクション（集中）	2	1
・ 課題研究に関する分野	児童生徒支援課題研究	1～2	1 × 4

学校運営コース			
・教育課程編成に関する分野	カリキュラム開発の課題と実践	1・2	2
・学校経営に関する分野	学校経営の課題と実践	1・2	2
	学校経営計画ワークショップ	1・2	1
	スクール・リーダーシップの課題と実践	1・2	2
	教師の職能発達と学校経営	1・2	2
	多文化共生教育の理論と実践フィールドワーク	1・2	1
・学校評価に関する分野	学校評価の課題と実践	1・2	2
・コンフリクト・マネジメントに関する分野	学校危機管理体制構築の課題と実践	1・2	2
・教育行政に関する分野	地方教育行政の課題と実践	1・2	2
・実践研究に関する分野	学校経営のリフレクション(集中)	2	1
・課題研究に関する分野	学校運営課題研究	1~2	1×4
修了に必要な単位数			各コースとも14

[学校における実習科目]

	授 業 科 目	履修年次	単位数 必修選択
課題研究実習	課題発見実習	1	1
	課題発見実習	1	4
	課題解決実習	2	5
修了に必要な単位数			10

(2) 履修方法の特例（現職教員の学生）

第1年次は通常の授業時間で履修し、第2年次の履修は、大学院設置基準第14条の規定に基づく教育方法の特例により、在職校に勤務しながら本研究科に登校して授業及び研究指導を受け単位を修得することができます。

また、第2年次の課題解決実習は、原則として勤務校で実施し指導教員が出向いて指導を行います。

(3) 修業年限等

標準修業年限は、2年とします。在学期間は、休学期間を除き4年を超えないものとします。

3. 学位

各コースで定めた修了要件を満たした者には、教職修士（専門職）の学位を授与します。

4. 教育職員免許状の取得

次の表に示された学校、教科の1種免許状を所有する者は、教職リーダー専攻を修了することにより、それぞれの専修免許状を取得することができます。（現在申請中です。）

専 攻	コース	免許状の種類	教 科
教職リーダー	児童生徒支援	小学校教諭専修免許状	国語,社会,数学,理科,音楽,美術 保健体育,技術,家庭,英語
		中学校教諭専修免許状	
	学 校 運 営	高等学校教諭専修免許状	
		幼稚園教諭専修免許状	